



全国植樹祭とは

全国植樹祭は、天皇后陛下の御臨席の下、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する理解を深めるため、昭和25年から各都道府県を巡って毎年春季に開催されている国土緑化運動の中心的な行事です。

5月17日(日)に、愛媛県総合運動公園(愛媛県松山市)で、「育てるけん 伊予の国から 緑の宝」をテーマに「第76回全国植樹祭」が開催されました。愛媛県での開催は、昭和41(1966)年に温泉郡久谷村(現松山市久谷町)で「第17回全国植樹祭」が開催されて以来、60年ぶり2回目となりました。

式典では、大会会長を務める森衆議院議長と中村愛媛県知事挨拶の後、天皇陛下から「この大会のテーマである『育てるけん 伊予の国から 緑の宝』にふさわしく、人々がかけがえのない宝である森林への愛情を育み、親しみながら森林を大切に守り育てていくとともに、森林資源の循環利用や健全な森づくりに向けた活動の輪が、ここ愛媛の地から全国へ、そして未来へと大きく広がっていくことを願います。」とおことばを賜りました。

続いて、全国の緑化功労者や全日本学校関係緑化コンクール等の表彰、朝倉緑の少年団から鈴木農林水産大臣等への苗木の贈呈、大会会長や農林水産大臣等による記念植樹が行われました。

両陛下におかれては、天皇陛下がスギ(無花粉)、クスノキ、クヌギの苗木を、皇后陛下がヒノキ(少花粉)、タチバナ、トキワバイカツツジの苗木をお手植えされました。また、天皇陛下はクロマツとツブラジイの種を、皇后陛下はヤブツバキ、イロハモミジの種をお手播きされました。

今回の植樹祭に先駆け、県民主体の取組として「^{あした}明日の森林へ贈る^も愛レタープロジェクト」が行われ、寄せられた愛レターを元に大会テーマソングが制作されていました。式典中のアトラクションではこのテーマソングの演奏に合わせて、県内の高校生による書道パフォーマンスが行われ、愛媛の森林への想いを力強く発信する演出となりました。

最後に、濱田国土緑化推進機構理事長、愛媛大学大学院農学研究科の学生らが大会宣言を行い、愛媛県知事から次回の全国植樹祭開催県である奈良県の山下知事に、全国植樹祭のシンボルである「木製地球儀」が手渡されました。

次回の「第77回全国植樹祭」は奈良県奈良市を主会場に開催される予定です。



おことばを述べられる天皇陛下



緑の少年団から苗木を受け取る鈴木農林水産大臣



お手植えされる天皇后陛下



県内高校生による書道パフォーマンス